

資料9-①【教科】

部【 】科 授業実践研究フレームシート				
教科・科目・授業名		指導期間	月 日 ~ 月 日	
対象児童生徒	部 年 学級	指導者		

0 対象児童生徒の実態				
① 障害・病気の種類				
② 障害・病気の程度・状態				
③ 児童生徒の実態に係る具体的な情報の収集				
知的発達や経験の程度				
興味・関心				
生活や学習環境・習慣				
将来の生活環境・希望				
障害理解				
学力・学習特性や配慮				
長所やよさ				
課題等				
④ 教科上の実態				
⑤ 個別の指導計画 重点目標				
⑥ 個別の指導計画 自立目標				

1 目標（何ができるようになるか）				
① 単元で目指す 「できた」				
② 使用教科書・知的の段階				
③ 働かせる教科の「見方・考え方」	「見方考え方」の具体的な意味			
④ 将来・日常の生活との関連 卒業後や日常にどう生きるか 繋がるか				
⑤ 単元の観点別目標				
観 点	知識・技能			
	思考・判断・表現			
	主体的態度			
⑥ 単元で目指す「基礎力」				

2 単元内容（何を学ぶか）				
① 単元・題材名				
② 単元・題材の概要				
③ 横断・関連する教科等		縦断する学部・学年		
④ 教科等との横断、学部 の縦断の具体的な仕方				
⑤ 横断で育成する力の視点（※○かーか入れる※基礎力や要領のキーワードで選ぶ）				
八養版「社会人基礎力」				
教科の枠組みを踏まえた資質能力				
学習の基盤となる資質能力				
現代的諸課題に対応する資質能力				
⑥ 縦断で育成するキャリアの視点				

3 指導の工夫（どのように学ぶか）				
① 深い学びに向かう視点での工夫・改善				
視 点	「主体的学び」 への工夫			
	「対話的学び」 への工夫			
	「深い学び」 への工夫			
② 「見方・考え方」を働かせる 場面とそこに向かう過程				

記載上の注意	※このシートは「教科」用です。 ※自立活動・合わせたシートは別です。
--------	---------------------------------------

・プルダウンで選択してください。できるだけ自動化していますが、それ以外は自身で打ち込んでください。枠サイズは自由に広げてください。

① 病名・障害を記入

② 病気・障害の身体的状況を記入

③は、新学習指導要領解説自立活動編第7章2-2(1)「児童生徒の実態把握」(p107)を参照。自立活動のための把握内容だが、教科指導の計画に向けた実態把握情報ともなる。

④ 個人データからコピペ + α

⑤ 個人データからコピペ

⑥ 個人データからコピペ

☆は学校設定視点
★は新要領の中心視点
■は自立活動の視点

☆

★

★

☆

★

☆ ④ 昨年度研究・年計で考えた基礎力も参考に、この単元の基礎力を選択してください。

② 大まかに内容がわかるように

★

★

☆

※⑤は小・中学校の新学習指導要領総則編付録6参照
「教科の～」は、教科等の目標・内容から整理し記入
他はプルダウンで選択

★ ⑥ 学部・学年ごとの指導段階を記入

・「指導の工夫」は、指導要領、解説等を参照し記入

★

★

③ 「できた」に向かう具体的手立てとその過程		
④ 言語活動充実への工夫		
⑤ 情報教材・機器の活用能力育成の工夫		
⑥ 見通し・振り返りへの工夫		
⑦ 体験活動の工夫		
⑧ 自主的・自発的学びへの工夫		
⑨ 重点・自立活動の指導との関連を図る工夫		
4 発達への支援や配慮・指導方法や指導体制の工夫(どのように支援するか)		
① 知的発達段階や認知特性に対して		
② 身体・病状に対して		
5 授業で活用する教材・資源(何が必要か)		
① 人的教材・資源		
② 物的教材・資源		
③ 環境的教材・資源		
6 評価(何が身についたか)		
① 評価規準		
観点	知識・技能	
	思考・判断・表現	
	主体的態度	
② 評価方法		
③ 評価方法の工夫		
④ 「できた」かどうか		
⑤ 児童生徒への評価(達成段階・変容の状況)		
観点	知識・技能	
	思考・判断・表現	
	主体的態度	
⑥ 教師側評価(指導の目標や内容、指導方法の適切さ)		
観点	知識・技能	
	思考・判断・表現	
	主体的態度	
7 次に向けた改善点		

指導観

☆

★

★

★

★

★

★

★

★

★

・使うものを記載

・ない場合、「なし」と記載

★

②③明確な方法と工夫を検討

④「できた」「できない」「〇〇したらできる」等端的に記載

補足1:指導計画等の作成上の配慮事項
計画を立てる上で、指導要領各教科等の目標や内容はもちろんだが、要領及び解説の「指導計画の作成と内容の取扱い」に、教科等の特質に応じてどのような学習活動等の充実を図るとよいかを例示しているので参照してみてください。

補足2:この「授業実践研究フレームシート」は、今回の校内研究における以下の目的のために作成しました。
①児童生徒が「できた！」を感じられる授業を目指すこと。あわせて教師も、児童生徒に力をつけることが「できた！」といえる授業を目指すこと。
②児童生徒の将来に「生きる」力として整理した八養版「社会人基礎力」の視点を持つこと。児童生徒の将来を意識すること。
③新学習指導要領の理解につながる。そのため、フレームシート①【教科】は、新学習指導要領の解説、総則編第3編第2章第4節の教育課程の実施への配慮・工夫をベースに、総則に含まれるカリキュラム・マネジメントの要点を踏まえ、授業を行う上で検討すべき事項を押さえられるように構成に配慮した。※ただし、単元の具体的な推進計画や内容構成については、ここでは外している。